

救急医学

〔M6-70046P1〕

1 臨床実習の概要

救命救急科実習では、救急医療センターに受診するすべての患者診療に積極的に参加し、主に緊急性の高い重症患者における診断、検査、治療を学ぶ。ユニット講義の学習を発展させ、臨床実習だけでなく、関連のユニット講義の到達目標も合わせて達成するように進める。

2 金沢医科大学の学修成果（アウトカム）

- ①豊かな人間性と倫理観
- ②生涯学習
- ③医学知識と技術
- ④患者中心・チーム医療とコミュニケーション能力
- ⑤地域医療・社会貢献・国際貢献
- ⑥科学的態度・探究心

3 臨床実習の学修成果（アウトカム）

※カッコ内の数字は上記の金沢医科大学の到達目標との関連を示す。

- 患者および患者家族、他の医師・多職種と良好な関係を作ることができる（①④）
- 緊急性の高い疾患・損傷に対する判断力を養う（③）
- 症例を通して学んだことをプレゼンテーションできる（文献検索と理解など）（②③⑥）
- 救急患者の診療を通して・・・
 - ・医療面接、患者家族、救急隊から情報収集ができる（①④）
 - ・収集した情報から緊急性の高い鑑別診断を考え、優先順位をつけて検査、処置などを計画できる（③）
 - ・高齢者の医療制度、医療環境を理解して処遇を考えることができる（⑤）

※主要な疾患、症候、検査、治療

症候

心肺停止、呼吸不全、意識障害、ショック、多発外傷など

疾患・治療

不整脈、多発外傷、循環血液量減少性ショック、神経原性ショック、心原性ショック、アナフィラキシーショック、急性薬物中毒などの重傷疾患、時間外の外来における幅広い疾患

検査など

動脈血ガス分析、血糖値測定、CTscan、MRI、超音波検査など

4 方 略

- ①救急医療センターでの救急車対応、外来業務
- ②病棟、ICU で入院中の当科患者の診察
- ③ドクターカーで出動時に同乗し現場実習
- ④研修医同様の当直

5 事前事後学修について

臨床実習開始前に臨床実習予習ノートを復習しておくこと。ユニット講義を復習しておくこと。

【自己学習（事前事後学修）に必要な時間】

実習1日あたり 予習：60分 復習：60分

6 課題（実習中の課題やレポート等）に関するフィードバック

担当患者における検査、診断、処置につき独自に考察させ、教員により適宜フィードバックを行う。国試範囲の救急分野に関する質問があれば解説を行う。

7 評価

評価項目	評価割合
マナー・コミュニケーション	25 %
実習参加の積極性	25 %
学習成果	25 %
出席状況	25 %

8 実習スケジュール

別項参照

9 教育担当者

実習責任者：川原 範夫（救急医学事務取扱）

担当教員：秋富特任教授、牛本講師、伊藤助教、中嶋助教

10 参考図書・文献

購入すべき図書

1. 「標準救急医学」第5版 医学書院 監修 日本救急医学会

救 急 医 学

週間スケジュール（個人で異なるスケジュールとなる〔週40時間〕）

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	
月		カンファレンス 回診 [秋富・牛本] ＜必須＞						救急医療センターでの臨床実習 [秋富・牛本]、[全教育担当者]							週2回の当直 [全教育担当者]
火							救急医療センターでの臨床実習 [伊藤]、[全教育担当者]								
水							救急医療センターでの臨床実習 [中嶋]、[全教育担当者]								
木							救急医療センターでの臨床実習 [金戸]、[全教育担当者]								
金		国試対策講義					救急医療センターでの臨床実習 [秋富・牛本]、[全教育担当者]								

集合時間・場所：午前8時55分 病院3号棟1階

予定				部屋	
カンファレンス（月・金）				救急医学 カンファレンスルーム（全員出席） 但し、（金）は国試対策講義のため欠席可	
第	1	日	目	救急医学 カンファレンスルーム	
実	習	+	当直日	救急医療センター内 スタッフルーム	

当直実習について

- ・週2回の当直実習参加必須（（月）以外、夕食支給）、当直明けは休みとする
- ・午後9時までの臨床実習で終える日は、各自夕食を持参し実習に臨むこと（休憩は救急医に要確認）

実習スケジュールの例
週替え（A⇔B）

A	月：カンファレンス、実習	B	月：カンファレンス、実習
	火：実習＋当直		火：休
	水：休		水：実習＋当直
	木：実習＋当直		木：休
	金：休		金：実習＋当直
	土：休		土：休
	日：休		日：休